

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]

問内容		肯定率(%)		
		生徒	保護者	教員
(1)	学校の満足度。(保護者:生徒が生き生きしている。)	92.3	97.3	-
	暇高は楽しい。	93.0	86.1	-
(2)	教え方にさまざまな工夫をしている先生は多い。	93.0	-	-
	興味を感じる授業が多い。	83.5	-	-
	ペアワークやグループワークなどを授業に取り入れている。	-	-	84.0
	授業におけるICT機器の活用。	-	-	97.0
	授業アンケートの結果を教科指導に反映。	-	-	88.0
(3)	担任以外にも悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。	84.3	-	82.0
	学校生活についての先生の指導は納得できる。(教員:理解を得ている)	89.5	95.2	93.0
	将来の進路や生き方について考える機会がある。	95.9	94.0	86.0
	生命の大切さや社会のルールについて考える機会がある。	89.0	93.4	-
	いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。(教員:体制が整っている)	95.7	92.7	86.0
(4)	暇高祭は、楽しく行えるように工夫されている。	94.6	93.1	-
	部活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い。	96.0	95.5	96.0
(5)	本校の探究活動の取組みに満足。	76.0	92.7	93.0
	本校の国際交流(台湾修学旅行・オーストラリア研修等)の取組みに満足。	80.2	76.5	79.0
(6)	成績などの内容についてプライバシーが守られている。	95.7	95.3	77.0
	人権を尊重した指導への取組み。(教員:十分に話し合われている)	-	93.6	57.0

- (1) 生徒の肯定率はほとんどの項目で上昇し、保護者の肯定率は一部の項目で微減した。生徒の学校生活の満足度、保護者の評価はともに高い。
- (2) 生徒の授業満足度は上昇した。教員のペアワークやグループワーク実施率は6%、教員のICTを活用した授業実施率は14%、授業アンケートの活用は10%上昇した。これは、今年度新設した授業力向上委員会による「学ログ(校内の授業検索システム)」の作成、1人1台端末の活用や新観点別評価に関する教職員研修の実施など、授業力向上に向けた積極的な働きかけの成果である。今後も、授業力向上委員会が中心となり、「生徒の学力伸長や興味関心を高める授業」をめざして、さらに授業見学や研究授業を活性化していく必要がある。
- (3) 生徒指導や進路指導、教育相談に関しては、生徒、保護者ともに評価が高い。「担任以外にも悩みや相談に親身になってくれる先生がいる」という項目の肯定率が、生徒は約7%、教職員は4%上昇するなど、教育相談に関しては評価が大きく上昇した。また、「将来の進路や生き方について考える機会がある」という項目の肯定率は生徒、保護者、教職員ともに上昇した。これは、今年度、進路指導部が3年間の進路指導計画『なわて』を作成し、計画的に講演や研究室訪問などを実施してきた成果である。今後も教育相談体制や進路指導の充実に努めていく必要がある。
- (4) コロナ禍で制約が多かったが、今年度も暇高祭や体育祭、球技大会などの学校行事を工夫して行うことができた。また、部活動も緊急事態宣言下で原則休止となる期間も長かったが、部活動加入率は昨年度とほぼ同水準を維持した。その結果、行事や部活動に関する肯定率は生徒、保護者、教員いずれも90%以上と高く、今後も維持していく必要がある。

- (5) 課題研究への取り組みは、コロナ禍で制約が多かったにもかかわらず、生徒、保護者、教職員ともに肯定率が上昇した。特に教職員の肯定率は13%上昇している。これは、GL部が中心となって全校体制を構築してきた努力の成果である。国際交流はコロナ禍で海外研修がすべて中止となったが、台湾やオーストラリアとの交流をオンラインで積極的に実施した。その結果、生徒の肯定率の減少幅は小さく、教職員の肯定率は上昇した。
- (6) プライバシー保護や人権尊重への取り組みについての生徒や保護者の評価は高い。人権教育に関する教職員の肯定率は12%上昇したが、まだまだ低く、人権教育を充実していく必要がある。